東海大学付属図書館第64回展示会

創立者 松前 重義

～ 希望を星につなげ ～

東海大学 湘南校舎 付属図書館展示室（１１号館１階）

２０１７年10月３０日（月）～12月16日（土）

「 松 前 重 義 略 歴 」

年	月	日	事項	社会事項	
1901	明治34	10.24	熊本県上益城郡上嶋村（現・嘉島町）で出生、父は集義、母 は恵寿（次男　7人兄弟中6番目）		
1922	大正11	4.1	東北帝国大学（現・東北大学）工学部電気工学科入学		
1925	大正14	3.31	東北帝国大学卒業		
		4.16	逓信省（現ＮＴＴ、郵政省、運輸省、通商産業省の一部）入省。雇として臨時電信電話建設局第三課に勤務		
		10.10	「三極真空管のInput Impedanceの測定」を『電気学会誌』（第447号）に発表		
1932	昭和7	3.20	「長距離電話回路に無装荷ケーブルを使用せんとする提案」を篠原登らとの共同研究として『電信電話学会誌』（第108号）に発表	1.28 5.15	上海事件始まる 五・一五事件勃発
1933	昭和8	3.9	逓信省より電話事業研究の目的でドイツ留学を命じられる	3.27	国際連盟脱退
1934	昭和9		※この年、逓信省は長距離市外電話網の基本方式として無装荷ケーブル通信方式の採用を決定		
1935	昭和10	1.26	無装荷ケーブル通信方式の発明により電気学会から「第10 回浅野博士奨学祝金」を授与される		
1936	昭和11	1.12	※この月より望星学塾の活動始まる		
1937	昭和12	8.14	逓信省工務局調査課長に就任	7.7	盧溝橋で日中両車衝突
		11.4	東北帝国大学より工学博士の学位を受ける（無装荷ケーブルによる長距離通信方式の研究）		
1939	昭和14		※この年、東京-奉天無装荷ケーブル通信方式による直通電話開通（2，700キロ）	5.12	ノモンハン事件勃発
1941	昭和16	12.3	逓信省工務局長に就任	12.8	日本軍、ハワイ真珠湾攻撃
1943	昭和18	4.1	航空科学専門学校（現・東海大学）、清水市三保に開校	6.25	学徒戦時動員体制確立要綱決定
1944	昭和19	7.18	陸軍二等兵として臨時召集		
1945	昭和20	5.19	召集解除	8.6 8.9	広島に原爆投下 長崎に原爆投下
		8.15	航空科学専門学校と電波科学専門学校を合併して東海専門学校と改称		
		8.30	逓信院総裁（東久邇内閣）に就任（～1946年4月）	8.30	連合国最高司令官マッカーサー厚木飛行場に到着
		10.20	東海専門学校、東海科学専門学校と改称		
1946	昭和21	1.10	財団法人英世学園設立認可、理事長に就任		
1950	昭和25	2.20	新制東海大学設立認可		
		3.21	東海科学専門学校廃止		
		4.1	新制東海大学開校		
1952	昭和27	1.15	学校法人東海大学理事長に就住（ ～1991年8月）	4.28	対日平和条約・日米安保条約発効
		6.1	東海大学学長に就住（～1967年3月）		
		10.1	衆議院議員当選（6期～1969年12月）		
1954	昭和29	5	社団法人電気通信協会理事に就住（～1984年2月）	3.1	ビキニ水爆実験で第五福龍丸被爆
1964	昭和39	6	首都大学野球連盟会長に就任		
1966	昭和41	1.10	日本対外文化協会会長に就任	5.16	中国、文化革命始まる
1967	昭和42	4.1	学校法人東海大学総長に就任（～1991年8月）		
		10	社団法人スウェーデン社会研究所会長に就任（～1991年8月）		
1969	昭和44	10	財団法人ＹＭＣＡ同盟委員長に就任（～1973年11月）	7.20	米国宇宙船アポロ11号、月面着陸
1970	昭和45	3	株式会社エフエム東京代表取締役に就任 （～1981年6月）		
1972	昭和47	9	現代総合研究集団代表幹事に就任（1986年12月会長）		
1975	昭和50	2	株式会社科学新聞社会長に就任		
		11.27	財団法人日本武道館会長に就任		
1979	昭和54	6	財団法人松前国際友好財団理事長に就任	1.1	米国、中国と国交回復
		12.5	国際柔道連盟会長に就任（～1987年11月）		
1981	昭和56	6.26	株式会社エフエム東京代表取締役会長に就任（～1989年6月）		
1983	昭和58	6	世界連邦建設同盟会長に就任 （～1985年 6月）	2.4	日本初の実用通信衛星さくら二号aを打ち上げ
		12.22	学校法人国際武道大学を設立し、理事長・学長に就任（～1991年8月）		
1984	昭和59	8	全日本学生柔道連盟会長に就任（～1988年6月）		
1991	平成3	8.25	逝去（享年89歳）	6.3 8.24	雲仙普賢岳噴火 ソ連共産党解散

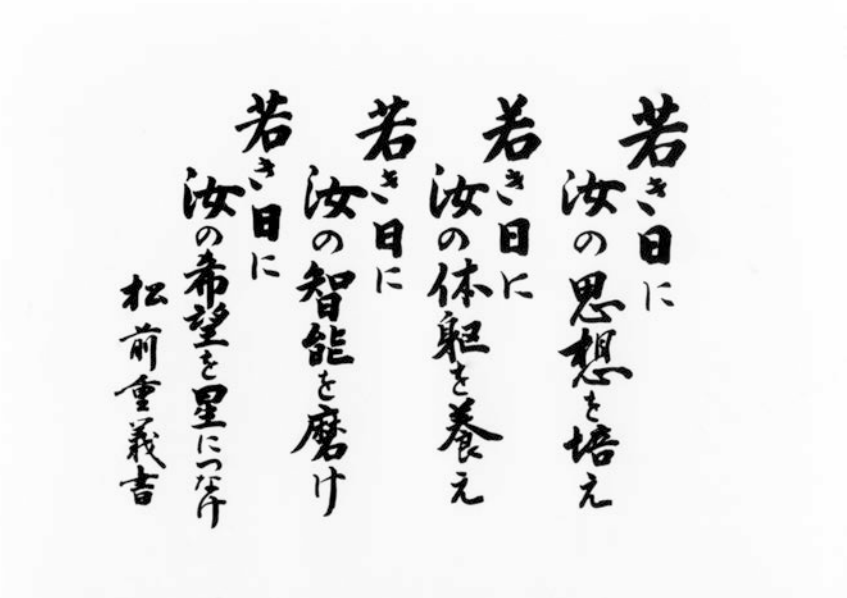
「希望を星につなげ: 望星学塾創立七〇周年を記念して / 東海大学望星学塾編　東海大学，2005」年表より

展示にあたって

今年 東海大学は建学 75 周年を迎えます。教育によって豊かな社会を築くという理念のもとに松前重義博士(1901-1991)は東海大学を創りました。創立者が志を立ててから、現在の東海大学の形になるまでには長い道のりがありました。没後 26 年経ち、創立者の生の声を聞いた方々も少なくなりつつあります。この展示を通して、創立者が篤い志をもって生きたあの頃を振り返るとともに、創立者の人物像に迫ります。創立者の息吹を身近に感じていただけたら幸いです。

「若き日に汝の思想を培え、若き日に汝の 体躯 を養え、若き日に汝の智能を磨け、若き日に汝の希望を星につなげ」という創立者が残した言葉が生まれた背景を垣間見ていただけたらと思います。

最後になりましたが、今回展示を開催するにあたって学園史資料センターにご協力、ご教示をいただきました。同センターからは貴重な資料も多数お借りいたしました。ここに感謝し、御礼申上げます。



＜創立者の愛したもの＞

「声なく教う富士ケ岳/海濤叱咤す太平洋…」で始まる建学の歌にもあるように創立者は富士山を愛した。読書家であった創立者は日本の古典である中世の軍記物語をはじめ、人生論、宗教書、外国の詩集までいろいろな分野を読みこなしていた。中でも土井晩翠の詩は随筆などに紹介するほど好んでいた。
このコーナーでは、人間松前重義が愛したものを集めた。

1. 平家物語評釈 / 内海弘蔵著　校訂版
   東京：明治書院，1924年　　松前・篠原文庫

2. 平家物語
   京都：平安城書林，元禄12 (1699)年刊 12巻6冊

3. 校訂太平記 / 博文館編輯局校訂
   東京：博文館，1906年　　松前・篠原文庫

4. Representative men of Japan (代表的日本人) / 内村鑑三著 (内村鑑三全集15巻：英文 上)
   東京：岩波書店，1933年
   創立者が大きく影響を受けた内村鑑三の著書(英文)。この資料の中には西郷隆盛・上杉鷹山・二宮尊徳・中江藤樹・日蓮が取り上げられている。熊本生まれの創立者は著作などで西郷隆盛について多く取り上げた。

5. 空の空なる哉 / 内村鑑三著（日本哲学思想全書 / 三枝博音, 清水幾太郎編集　8巻） 2版
   東京：平凡社，1980年
   「空の空なる哉」は『旧約聖書』「伝道の書」の冒頭の一節。創立者は『旧約聖書』「伝道の書」や『新約聖書』「羅馬書（ローマ人への手紙）」の語句をよく引用した。

6. 東海游子吟 / 土井晩翠著　再版
   東京：大日本図書，1913年　　松前・篠原文庫
   創立者は土井晩翠（どいばんすい）の詩を特に愛誦した。土井晩翠は仙台生まれ。第二高等学校（東北帝国大学として統合される。現東北大学）教授であった。『荒城の月』の作詞家として知られる。

7. 暁鐘 / 土井晩翠（現代日本文學全集 58巻）
   東京：筑摩書房，1957年
   東海大学の「東海」は『暁鐘』の「万里の長城の歌」からとったもので、太平洋を表す。

8. 富士の絵入り扇子
   1971年　1本
   1971年に東海大学短期大学部（静岡県）のお茶室開室の記念に富士の絵を創立者が描き入れたもの。

9. 富士の彩色絵入り扇子
   1958年　1本
   1958年に大学創立15周年記念として配布用に作られた扇子。

10. 富士登山図巻 / 石橋李長画
    安政6 (1859)年　1軸（巻子本）

11. 富士両道一覧之図・富嶽道中一覧 / 五雲亭貞秀画
    江戸：森屋治兵衛，安政6 (1859)年刊

12. 五十三次名所図会 / 歌川広重筆
    江戸：蔦屋吉蔵，安政2 (1855)年刊

＜創立者は体育会系＞

熊本中学校の時に柔道をしていた兄の影響もあり、柔道に夢中になった。恵まれた体もあり、めきめき上達し、熊本高等工業学校で講道館柔道二段を取得した。すでに日本武術の竹内三統流柔術も目録を受けた。東北帝国大学に入学して学業の傍ら陸上競技大会では砲丸投げで優勝するほどスポーツは万能だった。柔道部が無かった大学内に柔道部を創部し、技術だけでなく人間性も磨いた。柔道が縁で留学先のドイツで友情を築き、相互の理解に大いに役立った。東海大学を創立してからは九州・熊本で高校生だった山下泰裕を見出し、柔道の芽をより大きく開花させた。その山下泰裕も、井上康生を見出し、若き柔道家の養成への道が引き継がれてゆく。そして、柔道はその後も国際交流の良き架け橋になっていった。

13. 武道思想の探究 / 松前重義編
東京：東海大学出版会，1987年　　松前・篠原文庫
植村正久、新渡戸稲造、内村鑑三らの武士道論を集め比較したもの。

14. Toward an understanding of budo thought / edited by Shigeyoshi Matsumae
Tokyo：Tokai University Press，1987年　　松前・篠原文庫
「武道思想の探究 」の英訳書。

15. 背負い続ける力 / 山下泰裕著 （新潮新書 463）
東京：新潮社，2012年
神奈川新聞に掲載された「わが人生」(2011年1月1日-2月28日)に、加筆・修正をしたもの。

16. ピリオド / 井上康生著
東京：幻冬舎，2008年
自伝的エッセイ。

17. 私の民間外交二十年：日本対外文化協会二十年の記録 / 松前重義著；日本対外文化協会二十周年記念事業実行委員会編
東京：日本対外文化協会，1986年　　松前・篠原文庫

＜創立者は理系男子　そして逓信省へ＞

小学校5年の時に一家は熊本県上益城郡上島村から現在の熊本市へ移転した。その時、市内に一斉に点く街灯の光の美しさに心を奪われ、幼い創立者は科学の不思議を見る。
大正11(1922)年、創立者は東北帝国大学工学部電気工学科に入学する。その当時東北帝国大学は八木アンテナの発明者である八木秀次博士や、KS鋼という高性能合金を発明した本多光太郎博士など多くの優秀な工学者達が教鞭を執っていた。電磁気学の権威、抜山平一教授の元で卒業研究を行い、論文は電気学会誌に掲載された。
恩師から学究の道をすすめられるが、人々や国のために役に立つ公務員の職を選択した。大正14(1925)年に逓信省（郵便・通信等の行政官庁）に技官として入省する。

18. 電気通信概論 / 松前重義, 西崎太郎著　4版
東京：コロナ社，1938年　　松前・篠原文庫

19. 真空管 / 小林正次著 4版 （通信工学通俗叢書：理論編 / 松前重義編）
東京：電気通信学会，1942年　　松前・篠原文庫

20. 原子力時代を探る / 松前重義著
東京：東海出版，1956年　　松前・篠原文庫

21. 技術人と技術精神 / 松前重義著
東京：白揚社，1942年　　松前・篠原文庫

22. 日本技術論 / 松前重義著
東京：大日本雄弁会講談社，1942年　　松前・篠原文庫

23. 技術者の道 / 松前重義著

東京：科学新興社，1945年　　松前・篠原文庫

＜創立者が聖書に関心をもった訳：運命の出会い＞

逓信省に就職したものの、保守的体質や、前例主義の職場の中で、「人生如何に生きるべきか」という迷いが深くなる。同じ下宿人で杉並小学校の教諭吉川良弘から無教会主義の内村鑑三の聖書研究会に誘われ、そこで内村鑑三と出会う。聖書研究会の講演でデンマークのGrundtvig(グルントヴィ)が提唱していた国民高等学校のことを知る。これらが創立者の人生に大きな影響を与えることとなる。

24. わが宗教観 / 松前重義著（東海新書 8．松前重義著作集 8）
東京：東海大学出版会，1966年　　松前・篠原文庫
科学者としての宗教観を語ったもの。科学と宗教は矛盾しないということを述べている。

25. Thoughts on religion and life / by Shigeyoshi Matsumae；English translation by Maurice E. Jenkins
Tokyo：Tokai University Press，1987年
「わが宗教観」の英訳書。

26. 引照旧新約全書
横浜：米国聖書会社，1915年　　松前・篠原文庫
創立者が読んだ頃の聖書は文語体であった。『新約聖書』の「羅馬書（ローマ人への手紙）」の言葉を好み、よく引用した。

27. 科学の本質と信仰 / 鈴木弼美, 政池仁, 松前重義著
東京：日本伝道協会出版部，1939年　　松前・篠原文庫

28. 科学の進歩と唯物史観 / 松前重義著（東海新書 3．松前重義著作集 3）
東京：東海大学出版会，1962年　　松前・篠原文庫

29. 余は如何にして基督信徒となりし乎 / 内村鑑三著；鈴木俊郎訳
東京：岩波書店，1935年　　松前・篠原文庫
創立者が生涯にわたって影響を受けた人物、内村鑑三の書物。

30. Japanische Charakterköpfe / Von Kanso Utschimura (Uchimura, Kanzo)
Stuttgart：D. Gundert，1908年　　松前・篠原文庫
内村鑑三の"Representative men of Japan"(代表的日本人)のドイツ語訳。

31. 後世への最大遺物 / 内村鑑三著
京都：便利堂書店，1897年
明治27(1894)年箱根での内村鑑三の講演を記したもの。人として、後世に何を残すべきかをユーモアを交えながら、わかりやすく述べている。

32. デンマルク国の話ほか / 内村鑑三著 (読んでおきたい日本の名作)
東京：教育出版，2003年
創立者は内村鑑三の「デンマルク国の話」に大いに影響を受けた。

33. 聖書之研究
東京：聖書研究社，246-269号　1921-1924年　　松前・篠原文庫
教会を持たない無教会主義の内村たちは、書物や雑誌を発行して伝道活動をしていた。「聖書之研究」は明治33(1900)年に創刊された内村主筆の雑誌。展示資料はその一部。

34. 内村鑑三 草稿2種：「北海の秋」宮部金吾宛(大正元年）、「宗教と農業」(昭和4年)

宮部金吾は内村鑑三、新渡戸稲造らと同じ札幌農学校の二期生。「北海の秋」は内村主筆の「聖書之研究」148号(大正元年11月10日)用の原稿。「宗教と農業」は内村が昭和4(1929)年に東北帝国大学講堂で行った演説の草稿。

＜創立者は発明家＞

逓信省に入省後、創立者は「無装荷ケーブル通信方式」の研究に着手し、多くの同僚や技師と協力して発明に成功する。これは現在の電話通信の基礎を築き、長距離でも電話で明瞭な通話ができ、経済的に優れたシステムであった。それまで使用されていた「装荷ケーブル方式」は会話に時間差が生じ、長距離通信には莫大な費用を必要とした。また、当時日本の技術は外国に劣るという認識が強かった。創立者らの技術を認めさせるために実績の証明をし、実験を重ねた。そのため特許を200件以上も取得した。「無装荷ケーブル通信方式」の研究により、戦前の日本の技術は大きく推進した。

35. 「電話回線及び中継線の低周波に対する特性と濾波中継線輪及びその応用について」 / 松前重義, 吉田正共著
（『電気学会雑誌』1930年1月号）

36. 「増幅濾波検波器の設計と多重電信方式の応用」 / 松前重義, 宗像勝太郎, 石川武二共著
（初出:『電信電話学会雑誌』1932年2月号　展示資料は「発明への挑戦」pp.139-159より）
山口県下関-韓国・釜山間の実験報告。その後も学会誌に実験報告を多数投稿して成果を発表した。

37. 無装荷ケーブルによる長距離通信方式の研究 / 松前重義著
東京：コロナ社，1936年　　松前・篠原文庫

38. 発明記 / 松前重義著
東京：東海書房，1953年　　松前・篠原文庫
創立者は無装荷ケーブルを用いた高音質・長距離・多重通信方式を研究・開発した。その発明が完成するに至る経緯が書かれている。

39. 発明への挑戦：松前重義論文集 / 松前重義論文集刊行会編
東京：東海大学出版会，1969年　　松前・篠原文庫

＜創立者は二等兵＞

アジア・太平洋戦争がはじまり、逓信省工務局長だった創立者は海軍からの働きかけで「生産力調査グループ」をつくり、具体的な国力を調査した。その結果が惨憺たるものであったために、創立者は国民を負け戦に巻き込んではいけないと戦争中止に向けた活動を行った。そのことが災いし、通常、官僚(勅任官)が召集を受けるということは無かったにもかかわらず、東条英機内閣を支える陸軍から二等兵として召集の命が下り、大戦末期の激戦地へ送られる。『高松宮日記』によると、同様の召集が70数人あったと記載されている。

40. 二等兵記 / 松前重義著
東京：日本出版協同，1950年　　松前・篠原文庫
創立者は、懲罰召集にかけられ、二等兵として南方戦線に送られたが、奇跡的に生還した。この大戦の犠牲者を偲び、再びこのような悲劇を招かぬためには正しい歴史観、国家観を確立せねばならぬという信念が記されている。

41. その後の二等兵 / 松前重義著
東京：東海大学出版会，1971年　　松前・篠原文庫

42. 二等兵は死なず / 豊田穣著
東京：講談社，1978年　　松前・篠原文庫

＜創立者は政界に進出＞

創立者は内村鑑三の聖書研究会に参加して、その講義を聞き、書物を読み進むうちに、教育こそが自分の使命だとの思いが生まれる。戦時中に二等兵として召集され、戦後はGHQから公職追放を受けるなどの経験から教育の改革のため、政治への参画へと動いてゆく。また、科学技術の振興のために「政治の科学化」をめざして衆議院議員に出馬し、後の科学技術庁の設置、原子力基本法成立にも奔走する。

43. 松前重義その政治活動 / 「松前重義その政治活動」編纂委員会編　1-3巻
東京：東海大学，1987-1990年

44. 最近の世界政治の動向と思想的背景 / 松前重義著
東京：東海大学出版会，1965年

45. 新科学時代の政治観 / 松前重義著
東京：東海大学出版局，1960年

＜創立者が目指した教育の理想＞

内村鑑三の聖書研究会でデンマークの復興についての講義で、創立者はGrundtvig(グルントヴィ)が提唱した国民高等学校の教育に感銘を受ける。自分の目指す教育は、これだと確信を得る。逓信省からドイツ留学した際に、デンマークの国民高等学校を訪問し実情を把握する。本学での教育は、デンマークの国民高等学校を模範とし、出身校である熊本高等工業学校と東北帝国大学等の教育も参考とした。

*Grundtvig(グルントヴィ)：Nicolai Frederik Severin Grundtvig(1783-1872)デンマークの宗教家、教育家。

*デンマークの国民高等学校：1840年代、Grundtvigが提唱したもの。当時敗戦国で荒廃した祖国デンマーク再興のためには、試験や資格のためではなく、自分が何をなすべきかという自覚をもって学び、且つ、対話による相互作用を重視した全人教育が必要であるとし、各地に「国民高等学校」と名づけた教育の場を設け、農村青年の教育を行った。

46. Danmarks Krønike / af Saxo Grammaticus ; fordansket ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kiøbenhavn : Bekostet af Krønikens Danske og Norske Venner , 1818-1822年
Grundtvig(グルントヴィ)が訳した『デンマーク年代記』。デンマークの歴史家、Saxo Grammaticus(サクソ・グラマティクス)のラテン語の著作"Gesta danorum"(ｹﾞｽﾀ ﾀﾞﾉｰﾗﾑ)をデンマーク語に訳した。Grundtvigはサクソの翻訳をすることによって、次第に深くデンマークの精神に触れてゆく。そしてサクソの古典的な歴史を農民たちにもわかるようにやさしいデンマーク語に翻訳した。

47. Nordens Mythologi eller Sindbilled-Sprog historisk-poetisk udviklet og oplyst / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kiöbenhavn : J.H.Schubothes , 1832年
Grundtvig(グルントヴィ)著の『北欧神話』。Grundtvigが第2回の渡英の後に書いたこの大作の序文には、国民高等学校創立の思想が書かれている。デンマークの農民たちに北欧の先人たちの歴史的事実を正しいデンマーク語で教えようとする考え方である。

48. Bøn og Begreb om en Dansk Høiskole i Soer / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kiøbenhavn : Wahlske , 1840年
Grundtvig(グルントヴィ)著の「ソーレ(Soer)のデンマーク高等学校についての願望とその概念」。国王に対して、ソーレの国立のアカデミーを国民高等学校に改造することを提案した。

49. デンマークの文化を探る / 松前重義著
東京：向山堂書房，1936年　　松前・篠原文庫

国民高等学校教育によって、デンマークはなぜ国の復興に成功したか。著者はヨーロッパ留学中に、この問題を研究した。

50. 敗戦デンマークの復興を見よ / 松前重義著
東京：東海書房，1945年　　松前・篠原文庫

＜創立者が目指した教育の実践＞

内村鑑三没後、創立者は自宅で聖書研究会（教育研究会）を開く。教育への理想を、望星学塾、英世学園、航空科学専門学校、東海大学へと引き継ぎながら実現してゆく。しかし、理想は高く、現実は厳しかった。ようやく東海大学を創立しようとした矢先「公職追放」を受けたため、教育活動に専念出来なくなってしまう。戦後の大学の混乱も加わり、財政的に厳しくなって本学存続が危ぶまれたが、志を同じくした恩師・同志の多くが献身的に支えた。

51. 松前重義と望星学塾：その思想と行動 / 「松前重義と望星学塾」編纂委員会編
東京：東海大学，1986年　　松前・篠原文庫

52. 松前重義と英世学園：その思想と行動 / 「松前重義と英世学園」編纂委員会編
東京：東海大学，1986年　　松前・篠原文庫

53. 現代文明論 / 松前重義著　改訂増補版
東京：東海大学出版会，1964年

54. 回顧と前進：東海大学建学の記 / 松前重義著
東京：東海大学出版会，1963年

55. 前進する東海大学 / 東海大学編
東京：東海大学，1967年

＜創立者が目指した教育の先駆け＞

戦争が終わり、だいぶ世の中は落ち着いたというものの、1956年当時は高校や大学進学をあきらめる有望な青少年が多かった。そこで創立者は働きながら学べるFM放送を使った高校通信教育を考え、FM放送の実用化試験局開局に尽力した。まだ一般的ではなかったFM受信用ラジオを安価で提供できるようにするため、代々木キャンパスに学校工場を設け、夜間の第二工学部の学生が製作に従事する道を開いた。こうして、高校生に通信教育を、大学生にはキャンパス内で働きながらも学ぶことが可能な夜間の学部と勤労奨学生制度を提供するという「先駆け」の教育を行った。実用化試験局は、実用化実験局「FM東海」となり、1970年に現在の「FM東京」となった。
また、逓信省時代の戦争末期、技術院の調査団の団長として原爆投下直後の昭和20年8月8日に広島に行き、惨状を目のあたりにした事と、ビキニ環礁で被爆した第五福龍丸の帰港地焼津で直接、右派社会党調査団長としての聴取を行った経験から、平和的な原子力の活用を提唱していた。そのために日本で初めて本学に「工学部応用理学科原子力工学専攻(後の原子力工学科)」を設立した。
「東海」の名前を具現するように海洋学部を開設。「水産」に限定されない「海洋」という学部名称を用いた。創立者はこのように、「先駆け」の学部・学科を創った。

56. 東海大学の精神：大学の使命と未来へのビジョン / 松前重義著
東京：東海大学出版会，1969年

57. これからの放送FM / 谷村功ほか著；松前重義, 谷村功監修
東京：東海大学出版会，1962年

58. 東海大学キャンパスものがたり / 東海大学学園史資料センター編集　No.1-3 清水・代々木・湘南編　第2版
平塚：東海大学学園史資料センター，2010年

＜創立者は詩人＞

小学5年で転校した熊本市内の白川小学校は、漢学で有名な栃原塾の流れをくむ学校だった。小学校の授業から漢詩、漢文の習字が行われ、自らも詩歌に親しみ、詩作するようになる。
本学は一貫教育を推進するために、日本各地にキャンパスを開き、大学・付属高校から幼稚園を設置した。これらの校歌は、詩人でもあった創立者がその教育の使命を伝えるべく作詞したものである。

59. 松前重義詩歌集 / 松前重義著
東京：東海大学出版会，1967年　松前・篠原文庫

60. 松前重義手稿影印集 / 松前重義著；松前重義生誕百年記念事業企画委員会手稿影印集編集委員会編
東京：東海大学出版会，2001年

61. 東海大学学園歌集
東京：東海大学，2005年

＜本に書かれた創立者＞

62. その響きは天地にあまねく：松前重義に学んだこと / 石川冨士夫著
東京：キリスト新聞社出版事業部(制作)，1999年

63. 「建学の精神」その源流を求めて：若き日の松前重義博士の足跡をたどる：学校法人東海大学建学50周年記念「デンマークの文化を探る」教養旅行：報告書
東京：東海大学国際部国際課，1992年

64. 一すじの道：松前重義先生とともに / 森公男著
熊本：熊本日日新聞情報文化センター，1995年

65. 松前重義：魂の鼓動の音高く / 坂田大著
東京：東海大学出版会，1975年

66. 獅子奮迅：松前重義物語 / 坂本守著
福岡：西日本新聞社，1983年　松前・篠原文庫

67. 星を望んで歩んだ道：松前重義先生と私 / 内木文英著
東京：東海大学出版会，1996年

＜建学の同志たち7人＞

68. 新技術者精神 / 宮本武之輔著
東京：三省堂，1939年　松前・篠原文庫

69. 有線電話原理 / 梶井剛著
東京：日本逓信学会，1928年

70. 微分方程式序論 / 牧野不二雄著
東京：東海書房，1949年　松前・篠原文庫

71. ひとりの心 / 篠原登著
東京：港北出版印刷(印刷)，1968年　松前・篠原文庫

72. 無装荷ケーブルに於ける複素電磁結合に関する研究 / 篠原登著
東京：逓信省工務局調査課，1937年

73. 足利惇氏著作集　第1-3巻
東京：東海大学出版会，1988年

74. 真空管工学 / 浜田成徳著　上・下巻
東京：コロナ社，1937-8年　松前・篠原文庫

75. あすのすまゐ / 山田守著
東京：皇国青年教育協会，1943年　松前・篠原文庫

76. 建築家山田守作品集 / 建築家山田守展実行委員会編
秦野：東海大学出版会，2006年

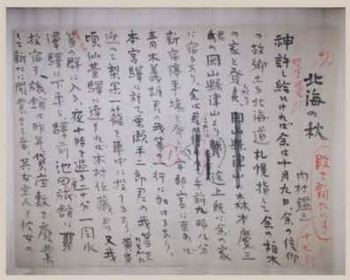
*展示資料No.8 個人蔵、展示資料No.9 東海大学学園史資料センター蔵

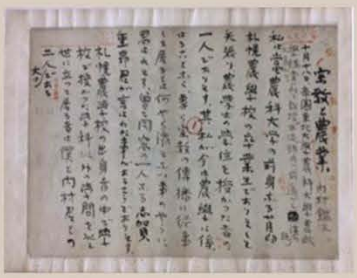
参考資料

- 図録東海大学50年 / 東海大学50年史編集委員会編 -- 東京：東海大学出版会，1992
- 東海大学五十年史 / 東海大学五十年史編集委員会編　通史篇 -- 東京：東海大学，1993年
- 松前重義わが昭和史 / 松前重義著；白井久也構成 -- 東京：朝日新聞社，1987年
- 松前重義わが人生 / 松前重義著 -- 東京：講談社，1980年
- 欅と私：随想集 / 松前重義著 -- 東京：東海教育研究所，1977年
- 欅と竜胆：夫・重義とともに歩む / 松前信子著 -- 東京：東海大学出版会，1990年
- 私の履歴書 / 日本経済新聞社編 （文化人　17巻）-- 東京：日本経済新聞社，1984年
- 希望を星につなげ：望星学塾創立七〇周年を記念して / 東海大学望星学塾編 -- 東京：東海大学，2005年
- 光を求めて：デンマークの成人教育500年の歴史 / オーヴェ・コースゴー著；川崎一彦監訳；高倉尚子訳 -- 東京：東海大学出版会，1999年
- 西郷南洲先生伝 / 南洲神社50年祭奉賛会編 普及版 -- 東京：改造社，1929年
- 日蓮と親鸞と豊太閤 / 村上信著 -- 東京：明文館書店，1928年
- 二宮尊徳の思想と行績 / 高須虎六著 -- 東京：高陽書院，1936年
- 藤樹先生全集　第1-5巻 / 中江藤樹著 増訂版 -- 東京：岩波書店，1940年
- 鷹山公世紀 / 池田成章編著 増補版 -- 東京：池田成彬，1924年
- 相模国絵図 -- 江戸末期写　多色刷　1舗
- 東海大学学園歌集：大学短期大学 （CD）-- 東京：学校法人東海大学，2006　他

松前・篠原文庫は、創立者と篠原登博士が収集した、東海大学創立の背景と足跡、建学の精神の源流に触れることができるコレクション。湘南校舎の中央図書館に設置されている。

展示資料**No.11** 富士両道一覧之図 富獄道中一覧





展示資料**No.34** 内村鑑三 草稿
（2種）

展示資料**No.8** 富士の絵入り扇子

創立者 松前重義展：希望を星につなげ
2017年10月30日　発行
著　者―東海大学付属図書館
発行者―東海大学付属図書館
https://library.time.u-tokai.ac.jp/
〒259-1292　平塚市北金目四丁目1番1号
電話　0463-58-1211（代）